



イスラエルの新セキュリティーシステムは問題がある



1. はじめに

添付の空域の図は日乗連ニュース No.34-09 に関連するものですが、このニュースのイスラエルが実験運用を始めようとしている Security Code System (SCS)にも大きく関係しています。SCSには多くの疑問点があり、IFALPAは、世界のパイロットを代表する団体として、7月26日 Press Release を発表し SCSには反対という立場を表明しました。今回は、その概要をお伝えします。

2. スマートカードをパイロットに配布

イスラエルの空域を飛ぶ可能性のあるパイロットに Electronic Smart Card が配布されます。パイロットはイスラエルの空域に入る前に、そのカードに PIN (Personal Identification Number : 個人に割り当てられた暗証番号)を打ち込み、その時点で表示された Code を (VHF 通信で) 送信することによって、その便のセキュリティー上の問題の有無が判別されます。要するにハイテク応用の合い言葉と言えるかと思います。

(次頁へ続く)

3. 複雑な空域で PIN を打ち込む必要がある

PIN の打ち込みはイスラエルの海岸線より約 180 nm (333 km) と決められています。この距離は、イスラエルへ向かう飛行機で一番多い北からの進入では Ercan Advisory Area 内であり、複雑な通信要件がある空域において、もう 1 つ操作が加わることとなります。しかし通常操作ならば許容範囲でしょうが、気象状態の悪化、病人発生、機材故障など他の要素が絡むと、カードの操作が正しく行えない場合もあります。

4. 誰が PIN を打ち込んだかは分からない

SCS で問題なしと判定されてもパイロットがハイジャッカーに脅されて行動しているかどうかは分からず、また PIN を打ちこんだ者がカードの発行を受けた者かどうかは分かりません。

5. カードの盗難、紛失、置き忘れ

IFALPA は、このカードの発行部数は 1-2 万の多数になると推定しています。盗難、紛失などにより本来の所持者の手を離れるとイスラエルに敵意を持つ者の手に渡る可能性は十分あります。

6. 判別不能の場合の方策

イスラエルの AIP には判別不能の場合に取るべき方策について記述がありません。判別不能の場合にイスラエル以外の空港に向かったり、イスラエルの空域通過を避けて飛行すると、飛行計画に大きな影響があります。

さらに言えば、正しくない Code を送信したり、間違っして脅威化にある場合の Code を送信した場合のイスラエル軍がどう行動するのが一番心配な事項です。

7. IFALPA は SCS に反対である

IFALPA は、世界のパイロットを代表する団体として、飛行機で移動する旅客の安全のためセキュリティー向上策には基本的に賛成するものです。しかし、SCS は有用性があるとしても僅かと思われ、かかる費用に見合う利点があるとは思えず、テロリストに新たな抜け穴を提供する可能性すらあります。このため IFALPA は SCS に反対という立場を取っております。

(以上)